



所在地 藤沢市打戻 1119 番地
 建物概要 木造平屋建金属板葺
 建築面積 138.6㎡
 建築年 大正 13 (1924 年)、昭和
 12 年移築、平成 24 年再移築
 設計・施工 英社寺建築
 (2 回目解体・移築)
 国登録有形文化財 第 14-0227 号
 ※平成 29 年 (2017 年) 5 月登録
 管理者 宗教法人盛岩寺
 交通 湘南台駅西口からバス、慶応
 大学・宮原経由 綾瀬車庫行 堂の前
 下車 徒歩 3 分。駐車場あり。
 ※通常は非公開。外観のみ見学自由

藤沢市の北部打戻盛岩寺の境内にあるのが薬師堂昭和文化館です。旧越前屋雨谷商店の店舗兼主屋であった建物で、大正 13 年 (1924) に建てられ昭和 12 年 (1937) 御所見村森家に移築され母屋として使用されていました。老朽化に伴い平成 21 年 (2009) 取り壊しが決まり、盛岩寺で貰い受け解体保存し平成 24 年 (2012) に移築再建となりました。その後本堂への廻廊、手洗い、茶室無庵等を増築、平成 26 年 (2014) に移築完成となりました。

旧越前屋雨谷商店は遊行寺惣門前に店をかまえ、蔵がいくつもあった大規模な商店でした。大正 8 年 (1919) 店舗を新築しましたが、4 年後の関東大震災で倒壊。翌年遊行通り大正橋近くに店舗を移し再建されたのがこの建物です。震災後の混乱の中、材料を吟味し建築できたのは相当な財力のあった商店であったと推察できます。

薬師堂内の薬師瑠璃光如来・日光菩薩・月光菩薩の三尊は、小柄ながらもおだやかで、また十二神将は精かんで躍動感あふれる慈悲深い仏様であり、近くの堂の前旧東光寺の本尊でした。明治初年寺は廃寺となり仏像は盛岩寺に移管されました。

建物の特徴はセガイ、太い梁、梁組の高い天井、広い土間、大正時代のガラス戸や板戸、千本格子の障子戸、京猫間の障子、当時は炭はありましたが冷房はなく、昔の生活の知恵と工夫を随所に見ることができます。

近年、農家の住居はプレハブ工法が多くなりました。豪農や庄屋等の建物は結構残っていますが商家の建物は珍しく、豪壮でありながら気品さえ感じられます。大正昭和の息使いが漂う歴史的建造物で貴重な建物です。

薬師堂の扁額は大雄山最乗寺御前の揮毫で、昭和文化館の扁額は昭和史研究家半藤一利氏の揮毫寄贈です。平成 29 年 (2017) 5 月に国登録有形文化財に登録されました。

(2018 年 9 月現在)